



浅沼 幸雄 議員
(政和クラブ)

一問一答方式

その他の質問

- 今後の市政運営について

保育士の心のケアの現状は

問.....

全国の保育所や認定こども園のうち精神的ケアが必要な保育士のいる施設が27%に上ることが厚生労働省研究班の調査で分かった。

保育士は、小さな子どもの安全を守る心理的重圧や、保護者を含む人間関係での悩みを抱えやすく、賃金などの待遇改善とともに心

のケアが必要と考えるが、市内における現状をどのように把握しているか。

答.....

現在市内において休職している保育士は無いと認識している。加えて、例えば毎月の園長会議、園内での職員会議、または、運営団主体主催による研修会等

心のケアは必要ないか

問.....

現在は、休職している保育士は無いとのことと、とりあえずは安心ではあるが、反面、潜在的に心のケアを必要としている保育士もいるのではないかと危惧されるが、市として今後どのようにとらえ対応して行くのか。

答.....

現在、保育所等の運営を委託している団体では、同僚、上司、そして園長へと相談する体制を構築しており、職員労働組合による相談窓口も設置しているとのことであるが、精神的ケアが必要な方へのセーフティネットとして、市としても運



小さな子ども達を預かる保育士の精神的ケアも重要となってくる

営団体と連携しながら相談体制の構築も図る必要があると考えている。

また、市としては、健康福祉の里、子育て総合支援センター等において、各種相談窓口を設置しているが、保

育士の負担の軽減を図るため、平成28・29年度の2カ年に渡り、子育て支援員研修を開催し保育士不足に対する施策も講じてきた。



佐々木大三郎 議員
(市民クラブ)

一問一答方式

中心市街地活性化策の現状と改善策は

問.....

中心市街地活性化策として、これまで約79億円の巨額な費用を投じてきたが、その効果と成果は。

答.....

総力を挙げて取り組んできたものの、東日本大震災以降観光客数は減少傾向にある。一方、官民一体となった産業まつりやホッ

問.....

中心市街地内の通行量等が減少(平成10年度比マイナス57.3%)し、店舗数も減り続けている。今後の対応策は。

答.....

中心市街地の核となる市役所新本庁舎を活かし、後期中心市街地

活性化計画(平成28年度〜32年度)に基づき、元気わらすっこセンター周辺の環境整備や空き店舗解消、JR遠野駅舎と周辺機能との連携など魅力あるまちづくりに努める。

問.....

「とおの物語の館」エリアの大規模改修工事を行ってきたが、お客様入込数は毎年減少し、収支も赤字状態が続いている。現状と今後の対応策は。

答.....

2010年の遠野物語発刊100年を機に周辺の環境整備を図ってきたものの、厳しい状況が続いている。関係者と知恵を出し合い、議論を重ねて賑わいを取り戻す。

問.....
改善策として、伊藤家のテナント化が計画されているが、黒字化は可能か。

答.....

収支面だけで捉えるのではなく、発想の転換を図って賑わいと魅力のある施設づくりのためにテナント化は有効である。

問.....

平成25年2月に活用計画(案)が示され、既に4年が経過している。その後の取り組み状況は。

答.....



閉店中の伊藤家

閉校中学校5校のうち2校(附馬牛・土淵)は活用済。残り3校(綾織・小友・上郷)は、地域の意見・要望を受けながら地域のよ

中学校再編成後の活用計画の現状は

を指して最終形態を調整中である。

問.....

活用内容について、今後の取り組み方針と計画は。

答.....

活用計画(案)のコンセプトに変更はないものの、地域にはさまざまな機能を備えた施設があることから、これらとの整合性と地域の合意形成を図り、財政面も考慮しながら早期実現を目指す。